

2025 年度 日本線虫学会 第 32 回大会開催予告

2025 年 5 月 1 日

大会運営委員会

2025 年度日本線虫学会大会（第 32 回大会）を 9 月 1 ～ 3 日に札幌市において下記の通り開催します。初日には「ジャガイモシロシストセンチュウ対策とふ化促進物質研究の進展」と題し、現在、緊急防除が行われているジャガイモシロシストセンチュウ対策の経過や今後を展望するほか、国内で進展著しいふ化促進物質研究を深掘りする公開シンポジウムを開催する予定です（次項「シンポジウム案内」参照）。また、2 日目の一般講演終了後には「若めの会」を開催します。主に学生向けのプログラムを予定していますが、若い心をお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、具体的な参加申込み方法や講演申込み方法、「若めの会」の詳細などにつきましては、それらをまとめた「開催案内」を 6 月中下旬に学会ウェブサイトに掲載しますので、それに基づいて手続きして下さい。

開催日程：

2025 年 9 月 1 日（月） 13:30 ～ 3 日（水） 12:00

9 月 1 日（月）：公開シンポジウム、懇親会

9 月 2 日（火）：口頭発表、ポスター発表、若めの会

9 月 3 日（水）：口頭発表、総会

大会会場： かでる 2.7 札幌市中央区北 2 条西 7 丁目（札幌駅から徒歩 13 分）

2025年度日本線虫学会大会 公開シンポジウム in 札幌

ジャガイモシロシストセンチュウ対策と ふ化促進物質研究の進展

日時：2025年9月1日(月)13:30～17:00

会場：かでの2.7 大会議室

(札幌市中央区北2条西7丁目)

2015年、国内未発生だったジャガイモシロシストセンチュウ(Gp)が北海道の一部地域において確認され、大きな問題になりました。翌年から「緊急防除」が開始されましたが、この防除では2020年以降、農薬を用いずに「捕獲作物」をメインの防除手段に用いており、大規模な防除としては世界に類を見ない試みとなっています。当初の試行錯誤を経て、防除は軌道に乗り、線虫検出圃場は順調に減少しています。また、線虫抵抗性バレイショ品種の選抜や育成も精力的に進められ、総合的な対策も整いつつあります。そこで、第1部ではGp緊急防除の経過を振り返るとともに、今後の封じ込めに向けた展望を探ります。

また、シストセンチュウが寄主植物の感知に利用する「ふ化促進物質」に関する研究では近年、国内で顕著な進展が見られます。第2部ではこれらの基礎研究と応用研究について紹介します。

※本シンポジウムは一般の方も参加可能です。

第1部 ジャガイモシロシストセンチュウ(Gp) 緊急防除のこれまでとこれから

1. ジャガイモシロシストセンチュウ類とは
坂田 至 (農研機構)
2. 緊急防除の取り組みと将来展望
竜滝 剛 (網走農業改良普及センター)
3. Gp抵抗性バレイショ品種の開発
赤井 浩太郎 (農研機構)

ジャガイモの根に寄生する
ジャガイモシロシストセンチュウ



第2部 ジャガイモシロシストセンチュウ類ふ化促進物質研究の最前線

1. ふ化促進物質解明研究の進展とそこから見えてきたこと
秋山 遼太 (理研 環境資源科学研究センター)
2. 単純構造ふ化促進物質の発見と防除活用の試み
串田 篤彦 (農研機構)

捕獲作物「ポテモン」栽培風景